國學院大學学術情報リポジトリ

論文 伝どんどん山出土の海獣葡萄鏡について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内川, 隆志, 佐藤, 周平 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001920

伝どんどん山出土の海獣葡萄鏡について

内川隆志[1)]・佐藤周平[2)]

はじめに

平成27（2015）年６月上尾市教育委員会より、同市でかつて出土したとされる海獣葡萄鏡に関する問い合わせを頂いた。一口に海獣葡萄鏡と言っても様々な例が知られるため、土中から出土したという事前情報から、先ず祭祀遺跡からの出土例が比較的多く知られる５～６cm 小型鏡を想定した。ところが、実際に見せて頂いたくと伝世鏡と思われる面径 9 cm ほどの鏡であった。早速細部の状況を見極めるべく LED 照明付きの 20 倍率のルーペで観察してみたところ何処にも土の残存が認められない状況を確認した。その後、間もなく所有者のご案内で、出土したとされる通称どんどん山の現地踏査と出土状況に関する情報をお聞きする機会を得たのである。

本論では、伝どんどん山出土海獣葡萄鏡についての理化学分析を踏まえた観察所見と国内における出土、伝世鏡等に関して若干の考察を行うこととする（内川）。

どんどん山の位置

海獣葡萄鏡の出土したとされる通称どんどん山の所在する上尾市は、大宮台地の中程に位置し、標高10～18mを測る。地形的には、一部寛永年間に河道付け替えられた荒川左岸に接している。市域の東部に芝川、西部に鴨川が南流する。古代には武蔵国足立郡に属し、郡家郷は大宮市の氷川神社を含む地域と考えられ、上尾市はその北側に位置している。原始･古代の遺跡は、主に荒川･鴨川･芝川原市沼･綾瀬川流域に分布している。古墳は、北は鴻巣市から南は浦和市･戸田市までの荒川流域に分布し､桶川市熊野神社古墳からは多用な副葬品が出土していることで知られる。上尾市内では畔吉に所在する殿山古墳が盛土の一部を残す唯一の古墳として知られている。

戦国時代には岩付太田氏から後北条の勢力下にあったが、天正18(1590)年徳川家康の関東入国以降はその支配下となった。近世には天領、旗本領、藩

図１　上尾市の位置

図２　どんどん山の位置

領、寺社領からなり中山道の宿場町（上尾宿）として賑わいを見せた。

どんどん山は、上尾市大字平塚1617-1周辺に所在したものと推定され地形的には大宮台地のただ中にあり、現状では宅地として整地され、その痕跡すら確認することは出来ないが、隣接する鬱蒼とした森はかつての武蔵野の風情を残している。（佐藤）

口伝の整理

どんどん山があったとされる二ツ宮周辺を記録した史料（原市　矢部基久家文書 95）には、延宝６（1678）年12月14日原市村と上尾村が村境争いをしたことについて、幕府評定所が裁許した際の絵図（図3）に直線に並ぶ 6 基の塚が描かれている。そのうち右端の塚には「岩本坊塚」と墨書表示され一回り大きく描かれている。塚を描いた墨は薄くなっているが、左隣りの塚には「かのへ塚」の表記が見え、後の 4 基には名称が付されていない。この塚に関する直接的な記述は認められず「岩本坊塚」あるいは「かのへ塚」がどのような性格を有する塚であったのか、また口伝に残るどんどん山であったのか否かについての確証は得られない。

さて、遠山正博氏による海獣葡萄鏡入手の経緯であるが、同氏によると本資料の出土伝承地は、現在湮滅している（所在地：大字平塚1617-1周辺）「どんどん山」と呼ばれた小高い山である。詳細は不明だが、全高７ｍ以上あったと言われている。鏡は昭和30年代に数人の子供たちで山を横から掘り進んだところ、内部の空洞状の空間から出土したものだという。本資料の他、鉄剣や勾玉なども出土したと伝わるが、所在は不明である。鏡は遠山氏が鏡を掘りあてた人物から直接入手したものである。

また、昭和31年12月20日発行『上尾自治だより（第24号）』内の「上尾郷土史稿」に、平塚の墳塚についての記述があり、同様に昭和32年12月20日発行『上尾自治だより（第35号）』には、町の史跡めぐりで「平塚円墓」という場所で昼食をとったという記事がある。このことから、遠山氏が本資料を入手した昭和30年代、当該地周辺にいくつかの塚が残っていたことがわかる。

日本における海獣葡萄鏡について

唐から日本に招来された鏡とそれを原型として日本で鋳造した鏡を合わせて唐式鏡と呼称する。中国において隋から唐時代に鋳造された鏡は、４期の発展段階（Ⅰ期６世紀後半～７世紀後半 / Ⅱ期７世紀後半～８世紀初頭 / Ⅲ期８世紀初頭～８世紀後半 / Ⅳ期８世紀後半～10世紀初頭）が知られる。文様の大きな流れとしてはⅠ期の隋から初唐における鏡は海獣葡萄鏡のように鏡背を植物文や動物文で埋め尽くし、Ⅱ期の７世紀末頃には鳥や獣、花枝などが単体で文様化されるようになる。Ⅲ期の８世紀中頃には鳳凰や雲龍、飛仙などが中央に大きく配置される鏡式に加え、平脱、螺鈿などの技法が加わった。Ⅳ期の晩唐期には安史の乱による唐王朝の衰退期であり、鏡背文様には宗教的意味合いを有する道教の伝統的な「八卦文」や仏教の「卍字文」などが盛行する[1)]。

杉山洋氏は、様々な唐式鏡の種類を中心となる文様である主文の種類から禽獣文系、双鳥文系、瑞花文系、人物文系の４種に分類し、禽獣文系に分類される海獣葡萄鏡を面径 20 cm を超える大型海獣葡萄

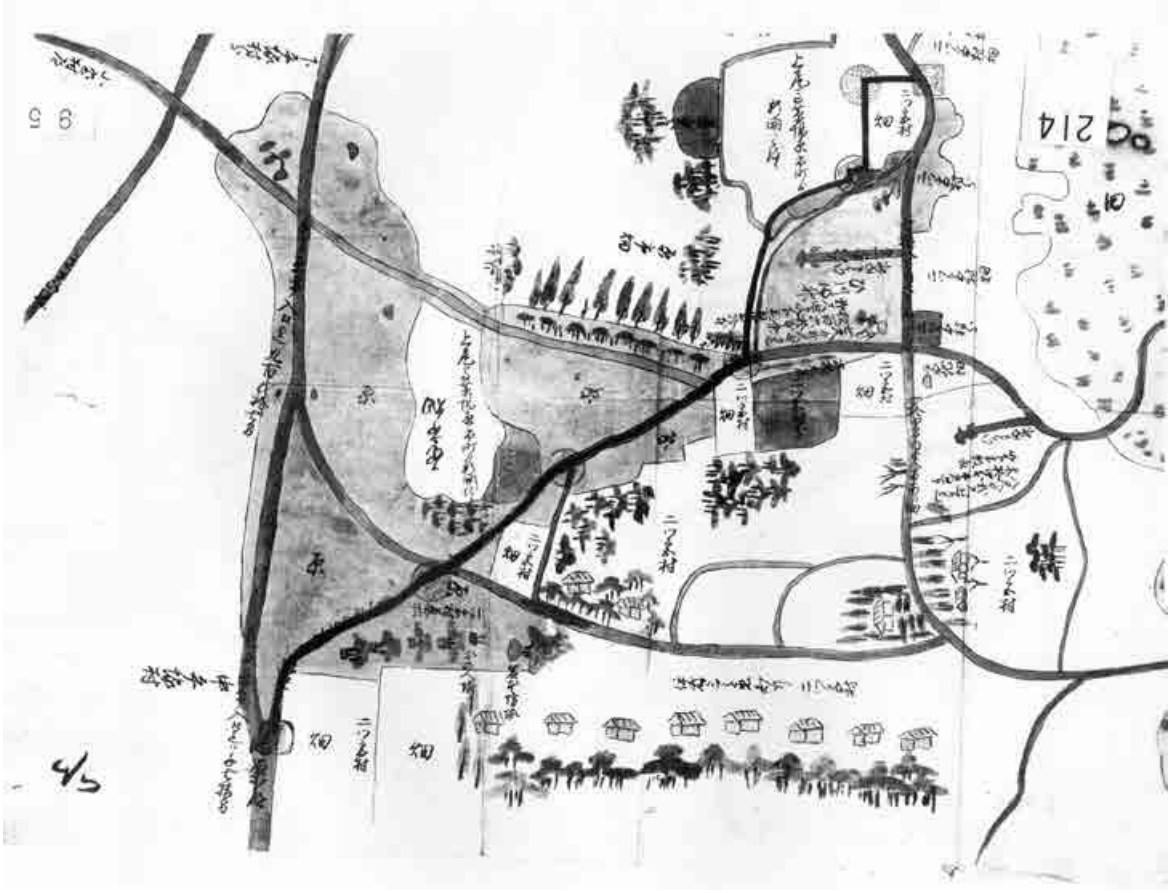


図３　延宝６(1678)年12月14日 原市村・上尾村の村境争論裁許絵図　（原市　矢部基久家文書95）

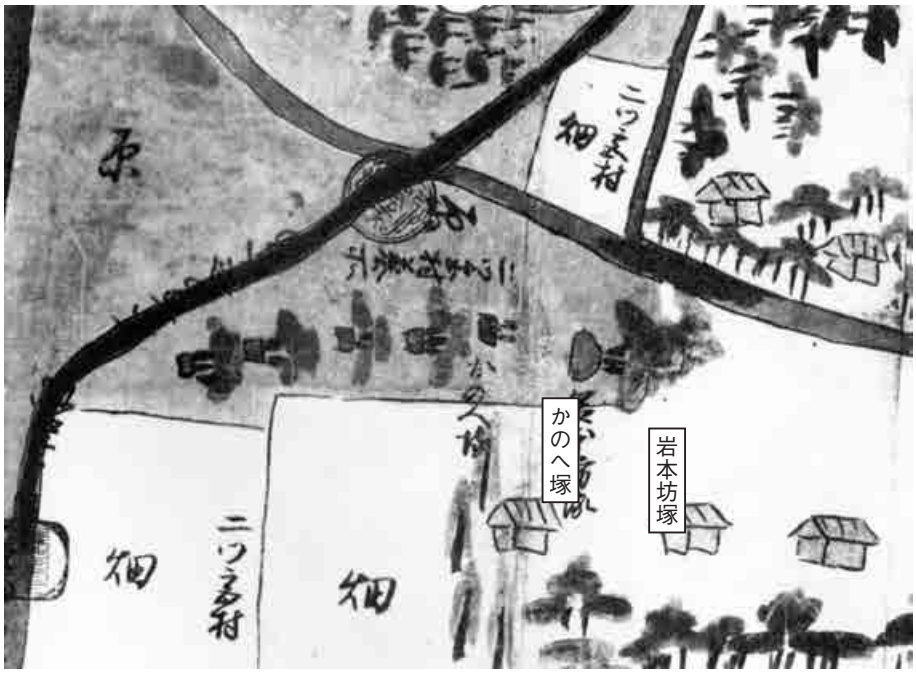


図４　同絵図細部

中央やや左に直線的に並ぶ塚の様子が描かれる。右端の「岩本坊塚」と墨書表示された塚が大きく描かれており、塚を描いた墨は薄くなっているが、左隣りの塚には「かのへ塚」の表記が見える。

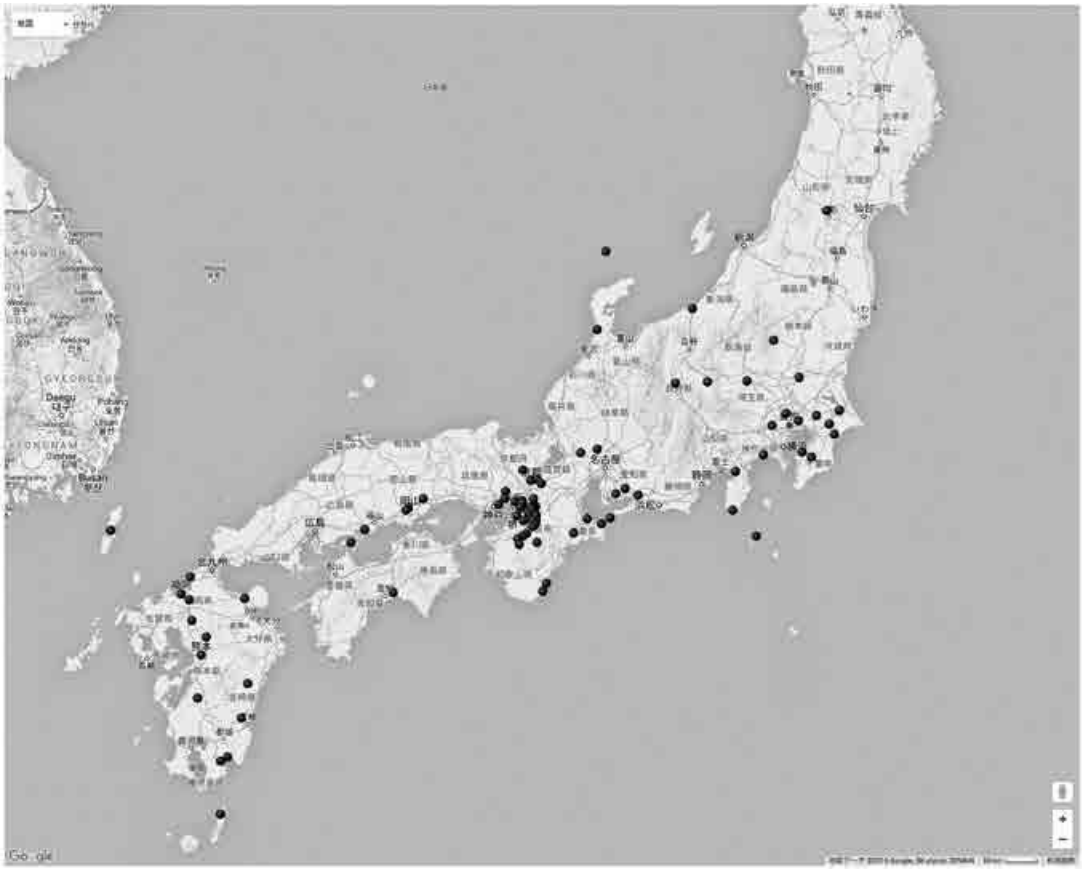


図５　国内の海獣葡萄鏡出土地・伝世地

本図は、表２中の「出土・伝世地」を地図上にプロットしたものである。本図の作成にあたり、埼玉大学教育学部人文地理学・谷謙二研究室が作成した「Geocoding and Mapping」（http://ktgis.net/gcode/index.php）を使用した。なお、本図では北海道と沖縄を省いていることを申し添えておく。

鏡（正倉院南倉第９号鏡・香取神宮鏡・春日大社鏡・大山祇神社鏡・山宮神社鏡など）、高松塚古墳鏡を典型とする面径 10～20 cm の中型海獣葡萄鏡（大阪城三の丸鏡・奈良県松山古墓鏡・福岡県真名子古墳鏡など）、面径10 cm 以下の小型海獣葡萄鏡（日本出土の海獣葡萄鏡では最も多く、直径 6 cm 前後の粗悪な踏返し鋳造による同型鏡が多数発見されている）の３種に分類されている[2)]。 20 cm を超える大型鏡は初唐の中期から後半頃にかけて製作され漸次鏡径を縮小し、初唐末期から盛唐期にかけて小型鏡が一般的となっていく。

伝どんどん山出土海獣葡萄鏡の観察

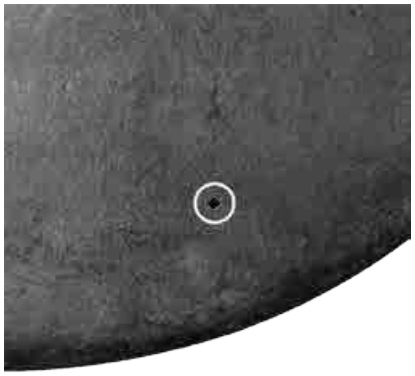
伝どんどん山出土の海獣葡萄鏡は、面径9.4 cm の小型海獣葡萄鏡に属し、勝部明生氏の分類[3)]によると定型式四獣鏡であり、その大半は12 cm 以下の小型鏡が主流である。面径の小型化に伴い大型、中型鏡に見られた内区の８、６の主文様が減って４になったものと考えられる。鈕は伏臥した獣形で内区には唐草文の間に四狻猊が地に伏した姿の俯瞰視で表現され、外区主文様からは獣が消えて唐草文と共に禽だけが描かれる（写真１・図６）。

表１　国内の海獣葡萄鏡出土地・伝世地一覧　（鳥越多工摩博士作表）

No.				出土・伝世地	直径	厚さ	重さ	
1	海獣葡萄鏡(破片)	出土	川前２遺跡	山形県山形市大字中野目字赤坂ほか				海獣葡萄鏡出土の北限
2	海獣葡萄鏡	出土	結城市大字結城（宮の下）	茨城県結城市	17.cm			
3	海獣葡萄鏡(破片)	出土	男体山山頂（製作地：唐）	栃木県日光市男体山	10.4cm（復元）			日光二荒山神社所蔵
4	海獣葡萄鏡	出土	白石古墳（製作地：唐）	群馬県藤岡市平井白石	11.5cm			落合熊之助氏所蔵
5	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	明花向遺跡	埼玉県さいたま市大谷口	3.65-3.68cm		18.41g	
6	海獣葡萄鏡	伝来	香取神宮（製作地：唐）	千葉県佐原市香取	19.8cm			香取神宮所蔵
7	海獣葡萄鏡	伝来	香取神宮（製作地：唐）	千葉県佐原市香取	13.9cm			香取神宮所蔵
8	海獣葡萄鏡	伝世	上総大寺廃寺	千葉県木更津市				熊野神社所蔵
9	海獣葡萄鏡	伝世	香取神宮(製作地：製作地：唐)	千葉県佐原市香取	29.5cm	2.0cm		国宝。香取神宮所蔵
10	小型海獣葡萄鏡	出土	千葉松の木台２号墳	千葉県富里市（旧印旛郡富里村）	6.2cm			芝山はにわ博物館所蔵
11	海獣葡萄鏡	出土	伝白山神社古墳	千葉県君津市俵田	11.16cm			宮崎庄右氏所蔵
12	海獣葡萄鏡	出土	伝白山神社古墳	千葉県君津市俵田	8.09cm			宮崎庄右氏所蔵
13	小型海獣葡萄鏡	出土	千葉瀬戸鈴耕地	千葉県印西市（旧印旛郡印旛村）	6.05cm			
14	海獣葡萄鏡	伝来	真行寺家伝来	千葉県山武市（湯坂古墳群から出土か）				
15	海獣葡萄鏡	出土	半田稲荷神社	東京都葛飾区東金町				昭和10年出土。東京低地で唯一の事例。
16	小型海獣葡萄鏡	出土	武蔵国分寺跡	東京都国分寺市	5.95cm			武蔵国分寺跡資料館所蔵
17	小型海獣葡萄鏡	出土	野伏西遺跡	東京都新島本村式根島	不明			
18	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	構之内遺跡	神奈川県平塚市中原上宿字構之内	6.6cm		58.9g	葡萄鏡の内区のみを作成。９世紀後半以降、掘立柱建物跡の柱穴内より出土、地鎮？
19	海獣葡萄鏡	出土	子安遺跡	新潟県上越市				９世紀後半、国内４番目の大きさ
20	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	寺家遺跡	石川県羽咋市	3.8cm	0.4cm	18.45g	石川県立埋蔵文化財センター所蔵
21	小型海獣葡萄鏡	出土	寺家遺跡	石川県羽咋市	6.1cm			石川県立埋蔵文化財センター所蔵
22	小型海獣葡萄鏡	出土	寺家遺跡	石川県羽咋市	6.3cm			石川県立埋蔵文化財センター所蔵
23	小型海獣葡萄鏡（破片）	出土	寺家遺跡	石川県羽咋市				石川県立埋蔵文化財センター所蔵
24	小型海獣葡萄鏡	伝世	舳倉島奥津姫神社	石川県輪島市舳倉島	6.05cm			奥津姫神社所蔵
25	小型海獣葡萄鏡	出土	長野芝宮遺跡	長野県佐久市	6.0cm			長野県埋蔵文化財センター所蔵
26	海獣葡萄鏡(破片)	出土	松本市三軒沢左岸	長野県松本市				長野県埋蔵文化財センター所蔵
27	海獣葡萄鏡	出土	加納山遺跡	岐阜県岐阜市加納山	7.0cm			岐阜市立博物館所蔵
28	小型海獣葡萄鏡	出土	出目地古墳	岐阜県不破垂井町大村平尾	6.1cm			
29	小型海獣葡萄鏡	出土	日詰遺跡	静岡県賀茂郡南伊豆町	5.60cm			
30	小型海獣葡萄鏡	出土	宮脇遺跡	静岡県熱海市	3.5cm	0.5cm		8ｃ
31	海獣葡萄鏡		個人蔵	静岡県駿東郡長泉町				
32	海獣葡萄鏡	出土	西幡豆	愛知県西尾市（旧幡豆郡幡豆町）	13.0cm			小野宗重氏所蔵
33	海獣葡萄鏡	出土	西幡豆	愛知県西尾市（旧幡豆郡幡豆町）	13.7cm			宮内庁書陵部所蔵
34	海獣葡萄鏡	出土	森月１号墳（製作地：唐）	愛知県豊川市大木（旧一宮町大木）	13.8cm			愛知県内唯一の出土例。豊川市民俗資料館所蔵
35	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	後田遺跡	愛知県西尾市（旧幡豆郡幡豆町）	3.50cm	0.15cm		
36	海獣葡萄鏡	伝来	林福寺	愛知県岡崎市蓑川町				岡崎市美術博物館所蔵
37	海獣葡萄鏡	発見	向山の浜（製作地：唐）	三重県度会郡大紀町（旧度会郡紀勢町向山の浜）	不明			所蔵不明
38	海獣葡萄鏡	出土	金剛坂の里（製作地：唐）	三重県多気郡明和町斎宮	8.95cm			鈴木俊雄氏所蔵
39	海獣葡萄鏡	採集	ユルベ浜（製作地：唐）	三重県度会郡大紀町（旧度会郡紀勢町向山の浜）	9.4cm			鈴木俊雄氏所蔵
40	海獣葡萄鏡	伝世	八代神社	三重県鳥羽市神島町	10.8cm			八代神社所蔵
41	小型海獣葡萄鏡	伝世	八代神社	三重県鳥羽市神鳥町	6.01cm			八代神社所蔵
42	小型海獣葡萄鏡	伝世	八代神社	三重県鳥羽市神鳥町	6.03cm			八代神社所蔵
43	小型海獣葡萄鏡	伝世	八代神社	三重県鳥羽市神鳥町	6.10cm			八代神社所蔵
44	小型海獣葡萄鏡	伝世	八代神社	三重県鳥羽市神鳥町	6.12cm			八代神社所蔵
45	小型海獣葡萄鏡	伝世	八代神社	三重県鳥羽市神鳥町	6.21cm			八代神社所蔵
46	小型海獣葡萄鏡	伝世	八代神社	三重県鳥羽市神鳥町	6.22cm			八代神社所蔵
47	海獣葡萄鏡		度会郡大紀町錦	三重県度会郡大紀町（旧度会郡紀勢町錦）				

No.				出土・伝世地	直径	厚さ	重さ	
48	小型海獣葡萄鏡	出土	太鼓塚古墳11号墳	滋賀県大津市滋賀里1丁目	6.2cm			大津市教育委員会所蔵
49	小型海獣葡萄鏡	出土	東光寺遺跡	滋賀県大津市東光寺	6.3cm			滋賀県教育委員会所蔵
50	小型海獣葡萄鏡	出土	周山廃寺	京都府京都市右京区京北周山町（旧北桑田郡京北町）	5.9cm			東京国立博物館所蔵
51	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	常磐仲之町遺跡城北街道５次調査地点	京都府京都市上京区	3.8cm	0.3cm	13.0g	葡萄鏡の内区のみを独立させたもの。これまで６遺跡８面の事例が知られる。
52	海獣葡萄鏡	出土	井手廃寺	京都府綴喜郡井手町	13.4cm			宮本守一氏所蔵
53	小型海獣葡萄鏡	出土	西ノ辻遺跡	大阪府東大阪市	6.3cm			東大阪市文化財協会所蔵
54	海獣葡萄鏡	伝世	東大阪市立郷土博物館	大阪府東大阪市	10.9cm			東大阪市立郷土博物館所蔵
55	海獣葡萄鏡		孝徳陵陪塚古墳（製作地：唐）	大阪府南河内郡太子町	11.5cm			広瀬淑彦氏所蔵
56	海獣葡萄鏡	出土	山田上	大阪府吹田市山田町上	14.0cm			吉田太郎氏所蔵
57	海獣葡萄鏡（破片）	出土	高木遺跡	大阪府松原市				
58	海獣葡萄鏡	出土	讃良郡条里遺跡	大阪府四條畷市・寝屋川市				
59	海獣葡萄鏡（破片）	出土	奥井谷古墳	兵庫県川辺郡猪名川町下肝川				猪名川町教育委員会所蔵
60	小型海獣葡萄鏡	出土	中山勅川窯址	兵庫県宝塚市	5.9cm			宝塚市教育委員会所蔵
61	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	深江北町遺跡	兵庫県神戸市東灘区	3.90cm			
62	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	奈良橿原四条大田中遺跡	奈良県橿原市	3.8cm	0.50cm		橿原市教育委員会所蔵
63	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	奈良橿原四条大田中遺跡	奈良県橿原市	4.0cm	0.50cm		橿原市教育委員会所蔵
64	小型海獣葡萄鏡	出土	藤原京右京五条四坊	奈良県柏原市	6.2cm			橿原市教育委員会所蔵
65	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	藤原京80次調査	奈良県橿原市	3.79cm			
66	禽獣葡萄鏡	伝世	春日大社（製作地：製作地：唐）	奈良県奈良市	29.5cm	2.2cm		国宝。春日大社所蔵
67	海獣葡萄鏡（貼銀背）	出土	西大寺（製作地：唐）	奈良県奈良市西大寺	11.2cm			河瀬虎三郎氏所蔵
68	鳥獣葡萄背円鏡	伝世	正倉院南倉７号（製作地：唐）	奈良県奈良市雑司町	24.7cm			正倉院所蔵
69	鳥獣葡萄鏡	伝世	正倉院南倉32号（製作地：唐）	奈良県奈良市雑司町	10.2cm			正倉院所蔵
70	※鳥獣葡萄背方鏡	伝世	正倉院南倉10号（製作地：唐）	奈良県奈良市雑司町	17.1cm（一辺）			正倉院所蔵
71	鳥獣葡萄円鏡	伝世	正倉院南倉８号（製作地：唐）	奈良県奈良市雑司町	23.9cm			正倉院所蔵
72	鳥獣葡萄背円鏡	伝世	正倉院南倉９号（製作地：唐）	奈良県奈良市雑司町	29.7cm			正倉院所蔵
73	海獣葡萄鏡	出土	松山古墳（製作地：唐）	奈良県高市郡高取町松山	9.8cm			東京国立博物館所蔵
74	海獣（禽獣）葡萄鏡	伝来	法隆寺（製作地：唐）	奈良県生駒郡斑鳩町	23.3cm	1.9cm		国宝。東京国立博物館所蔵
75	海獣葡萄鏡	出土	五條西久留（製作地：唐）	奈良県五條市西九留	14.1cm			東京国立博物館所蔵
76	小型海獣葡萄鏡	出土	金峰山	奈良県吉野郡天川村	5.6cm			東京国立博物館所蔵
77	海獣葡萄鏡	伝来	東大寺法華堂天蓋	奈良県奈良市雑司町	13.6cm			東大寺所蔵
78	海獣葡萄鏡（破片）	出土	平城京右京八条一坊・一三坊・一四坊	奈良県大和郡山市				奈良国立文化財研究所
79	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	平城京右京二条三坊三ツボ	奈良県大和郡山市	3.7-3.8cm	0.3cm		
80	小型海獣葡萄鏡	出土	大福遺跡	奈良県桜井市	6.1cm			奈良県立橿原考古学研究所附属博物館所蔵
81	海獣葡萄鏡鋳型	出土	飛鳥池遺跡	奈良県高市郡明日香村				奈良国立文化財研究所
82	海獣葡萄鏡	出土	高松塚古墳（製作地：唐）	奈良県高市郡明日香村	16.8cm			奈良国立文化財研究所所蔵
83	小型海獣葡萄鏡	出土	平城京九条大路	奈良県大和郡山市	6.05cm			奈良国立文化財研究所所蔵
84	海獣葡萄鏡	出土	法隆寺五重塔心礎（製作地：唐）	奈良県生駒郡斑鳩町	10.1cm			法隆寺所蔵
85	海獣葡萄鏡	伝来	法隆寺西円堂奉納	奈良県生駒郡斑鳩町				法隆寺所蔵
86	海獣葡萄鏡	出土	杣之内火葬墓（製作地：唐）	奈良県天理市杣之内	12.1cm			埋蔵文化財天理教調査団所蔵
87	海獣葡萄鏡	出土	多神社隣接地	奈良県磯城郡田原本町大字多	5.1cm	0.2cm	33g	
88	小型海獣葡萄鏡	出土	谷公園遺跡	奈良県桜井市	5.89cm			
89	小型海獣葡萄鏡（内区のみ）	出土	西隆寺跡	奈良県奈良市西西大寺北町	3.7-3.8cm			
90	禽獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	9.011cm	0.969cm	242g	大和文華館所蔵
91	海獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	10.563cm	0.815cm	315g	大和文華館所蔵
92	海獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	17.845cm	0.1138cm	900g	大和文華館所蔵

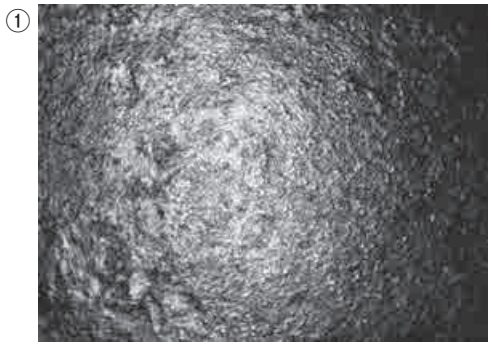
No.				出土・伝世地	直径	厚さ	重さ	
93	海獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	14.94cm	0.1375cm	994g	大和文華館所蔵
94	海獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	11.453cm	0.1034cm	368g	大和文華館所蔵
95	海獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	11.673cm	0.1298cm	513g	大和文華館所蔵
96	海獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	11.531cm	0.1212cm	466g	大和文華館所蔵
97	※海獣葡萄鏡（方鏡）	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	9.16cm（一辺）	0.1075cm	421g	大和文華館所蔵
98	禽獣葡萄鏡	伝世	旧奈良歴史教室所蔵	奈良県奈良市学園南	9.966cm	0.909cm	321g	大和文華館所蔵
99	海獣葡萄鏡	伝世	大和文華館	奈良県奈良市学園南	6.66cm	0.696cm	127g	大和文華館所蔵
100	小型海獣葡萄鏡	出土	隅田八幡宮経塚	和歌山県橋本市隅田町	6.30cm	0.6cm		
101	海獣葡萄鏡	伝世	高野山北室院（製作地：唐）	和歌山県伊都郡高野町	22.3cm			高野山北室院所蔵
102	海獣葡萄鏡	伝来	那智大社（製作地：唐）	和歌山県那智勝浦町	14.0cm			那智大社所蔵
103	海獣葡萄鏡（破片）	出土	慈尊院そばの紀の川河原にて表採	和歌山県伊都郡九度山町		0.8cm		破片２点を採取
104	海獣葡萄鏡（破片）	出土	慈尊院そばの紀の川河原にて表採	和歌山県伊都郡九度山町				破片２点を採取
105	海獣葡萄鏡	出土	蓬莱山御正体	和歌山県新宮市阿須賀	4.5cm			
106	海獣葡萄鏡	出土	神力寺址（製作地：唐）	岡山県岡山市一宮町	14.0cm			
107	小型海獣葡萄鏡	出土	川入・中撫川遺跡	岡山県岡山市北区中撫川	6.2cm			
108	海獣葡萄鏡	出土	熊山遺跡	岡山県赤磐市吉原				
109	海獣葡萄鏡（中型）	伝来	平田玉蘊（1787-1855）所蔵	広島県尾道市	10.0cm			おのみち歴史博物館
110	海獣葡萄鏡（小型）	伝来	平田玉蘊（1787-1855）所蔵	広島県尾道市	9.0cm			おのみち歴史博物館
111	禽獣葡萄鏡	伝世	大山祇神社（製作地：唐）	愛媛県越智郡大三島	26.8cm	1.7cm		国宝。大山祇神社所蔵
112	海獣葡萄鏡（破片）	出土	土佐国分寺跡	高知県南国市国分	13.5cm（復元）			
113	小型海獣葡萄鏡	出土	太宰府第160次調査	福岡県太宰府市観世音寺	5.85cm	0.55cm		
114	海獣葡萄鏡	出土	真名子古墳（製作地：唐）	福岡県八女郡星野村真名子	12.2cm			東京国立博物館所蔵
115	海獣葡萄鏡	出土	真名子古墳（製作地：唐）	福岡県八女郡星野村真名子	9.9cm			東京国立博物館所蔵
116	海獣葡萄鏡	出土	沖ノ島（製作地：唐）	福岡県宗像郡大島村	22.0cm			宗像神社所蔵
117	海獣葡萄鏡	出土	沖ノ島（製作地：唐）	福岡県宗像郡大島村	16.4cm			宗像神社所蔵
118	海獣葡萄鏡	出土	海底引き上げ品	福岡県福岡市東区西戸崎東沖合				
119	海獣葡萄鏡	出土	伝大綱付近	長崎県対馬市豊玉町（旧下県郡豊玉町）	18.3cm			金代の仿唐鏡の可能性あり。長崎県立対馬歴史民俗資料館所蔵
120	海獣葡萄鏡	出土	光厳寺	熊本県山鹿市菊鹿町上永野	11.5cm			
121	海獣葡萄鏡	伝世	一勝地阿蘇神社	熊本県球磨郡球磨村一勝地	15.0cm			一勝地阿蘇神社所蔵
122	海獣葡萄鏡	伝世	熊本市立博物館収蔵品	熊本市中央区古京町	13.37cm			熊本市立博物館所蔵
123	海獣葡萄鏡	伝世	熊本市立博物館旧住谷コレクション	熊本市中央区古京町	7.05cm			熊本市立博物館所蔵
124	海獣葡萄鏡	伝世	高田コレクション	熊本市中央区古京町	9.27cm			熊本市立博物館所蔵
125	海獣葡萄鏡	伝来	宇佐神宮	大分県宇佐市南宇佐				宇佐神宮所蔵
126	海獣葡萄鏡	伝世	神門神社	宮崎県東臼杵郡美郷町南郷区（旧東臼杵郡南郷村神門）	10.6cm			神門神社所蔵
127	海獣葡萄鏡	伝世	神門神社	宮崎県東臼杵郡美郷町南郷区（旧東臼杵郡南郷村神門）	10.7cm			神門神社所蔵
128	海獣葡萄鏡	伝世	神門神社	宮崎県東臼杵郡美郷町南郷区（旧東臼杵郡南郷村神門）	11.2cm			神門神社所蔵
129	海獣葡萄鏡	伝世	神門神社	宮崎県東臼杵郡美郷町南郷区（旧東臼杵郡南郷村神門）	11.9cm			神門神社所蔵
130	小型海獣葡萄鏡	伝世	神門神社	宮崎県東臼杵郡美郷町南郷区（旧東臼杵郡南郷村神門）	5.85cm			神門神社所蔵
131	海獣葡萄鏡	伝世	神門神社	宮崎県東臼杵郡美郷町南郷区（旧東臼杵郡南郷村神門）	9.8cm			神門神社所蔵
132	海獣葡萄鏡	出土	本庄古墳群内（製作地：唐）	宮崎県東諸県郡国富町本庄	9.9cm			福島道明氏所蔵
133	小型海獣葡萄鏡	伝来	大広野神社（大山祇神社）	鹿児島県西之表市西之表大広野集落（種子島）	9.13cm	0.74cm	177g	海獣葡萄鏡伝来の南限。種子島開発総合センター所蔵
134	海獣葡萄鏡	伝世	都萬神社	鹿児島県大崎町	25.5cm			都萬神社所蔵
135	海獣葡萄鏡	伝世	山宮神社（製作地：唐）	鹿児島県志布志町	29.2cm			山宮神社所蔵
136	海獣葡萄鏡（破片）	出土	平安山原Ａ遺跡	沖縄県北谷町				15・16世紀に踏み返されたものか。ノロの所有とされる。



鏡背面の所々に僅かに緑青が確認されるものの総じて遺存状況は良好である。土の残存が全く確認できないことから本鏡は伝世鏡と考えて大過なかろう。鏡面には多くの擦痕が認められる。

また、鏡面に一辺約0.7mm、深さ約0.3mmの四角錐状の小孔が認められる。

写真1　伝どんどん山出土海獣葡萄鏡
鏡背径 9.3cm　鏡面径 9.4cm　縁高 1.0cm　重量 351g



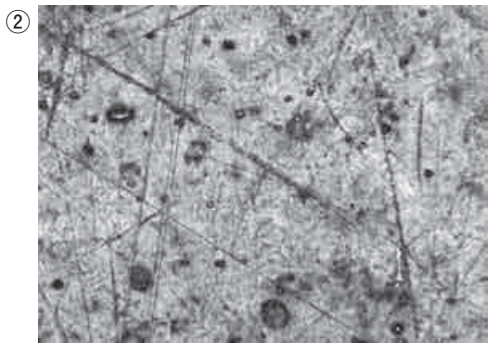


写真２　顕微鏡写真（5倍）

① 鏡背面中央
細部を観察しても土の付着は認められない。

② 鏡面中央
無数の疵が観察され、本鏡が実際に磨かれ使用されていた事を示す。

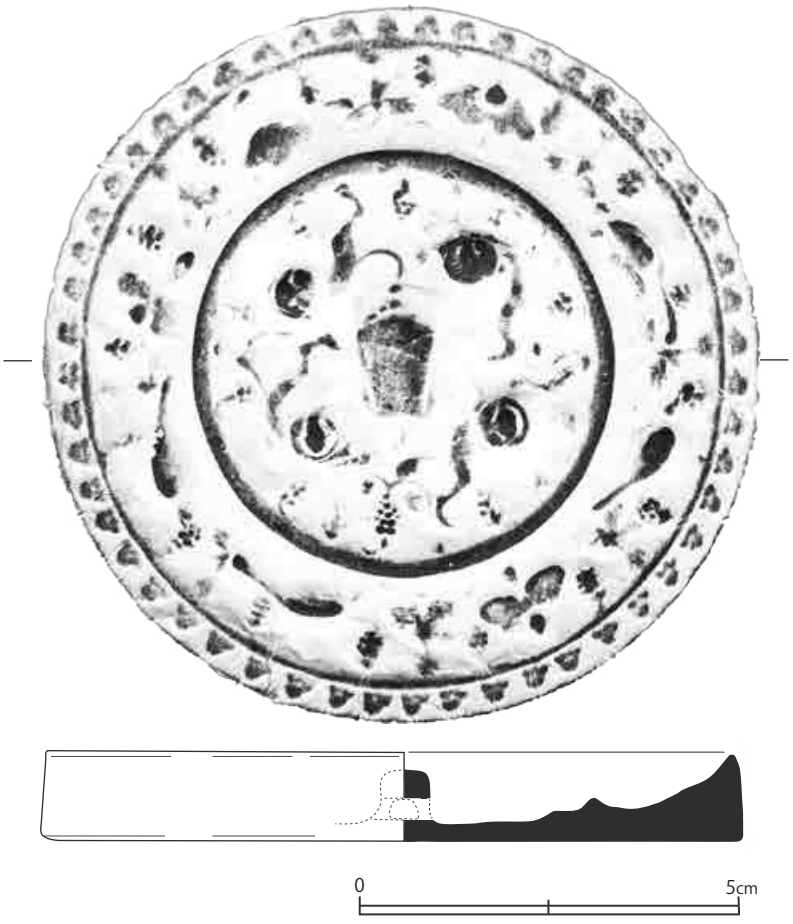


図６　伝どんどん山出土海獣葡萄鏡実測図

鏡背、鏡面共に暗茶褐色を呈し、鏡面の内区には若干緑青が認められるが総じて整美な状態を維持しているが鏡背文様の湯廻りは全体にあまく、踏返し鏡であることが推定される。顕微鏡で表面の状況を観察した結果、土の残存が認められない（写真2-①）ことと錆化がほとんど見受けられないことから本鏡は出土鏡ではなく伝世鏡と考えて大過ない状況を示している。鏡面は平滑に磨き上げられ全体に無数の擦痕が観察される（写真2-②）。（内川）

理化学的分析結果

伝どんどん山出土の海獣葡萄鏡の蛍光X線分析の結果、表２に示した成分が検出されている。主成分のCu（銅）が71.8%、Sn（錫）が19.1%、Pb（鉛）が2.99%の割合で検出されている事から、本鏡が比較的錫分の多い白銅鏡であったことが推定される。正倉院鏡等の分析で確認された中国からの輸入鏡の値、Cu70%、Sn25%、Pb５%の割合との間には若干の差が認められるものの数値的には近いものとなっている。ただし、近年の海獣葡萄鏡分析[3]で総じて検出されているAg（銀）、Sb（アンチモン）が認められない点に関しては注意する必要があろう。つまり、唐鏡の場合必ずAg（銀）、Sb（アンチモン）が検出されているが、伝どんどん山鏡では全く検出されていない結果となっている。この成分の差は本鏡が初唐末期から盛唐期にかけて請来された小型鏡ではない事を示唆している可能性を指摘しておきたい。

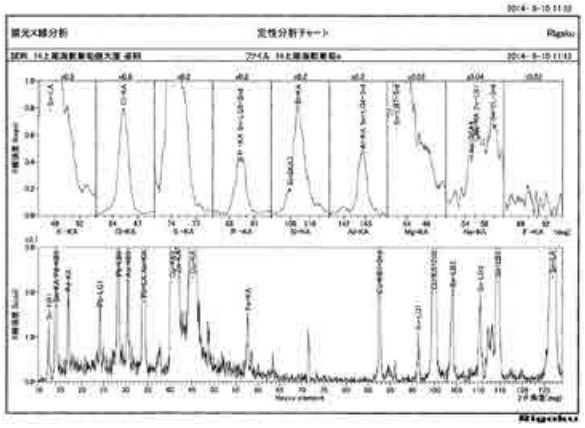
（佐藤）

表２　蛍光X線分析結果（株式会社リガク）

SQX分析結果

試料名：14上尾海獣葡萄鏡大屋 道則　　分析日時：2014- 6-10 11:12
アプリケーション：EZS000MNV　　試料モデル：バルク　　バランス成分　：
マッチングライブラリ
ファイル：14上尾海獣葡萄a

No.	成分名	分析値	単位	検出限界	分析線	X線強度	規格化前
1	Na	1.25	mass%	0.2755	Na-KA	0.0187	1.2703
2	Al	0.454	mass%	0.0231	Al-KA	0.0978	0.4628
3	Si	0.834	mass%	0.0349	Si-KA	0.1707	0.8497
4	P	0.321	mass%	0.0177	P -KA	0.0771	0.3270
5	Cl	0.864	mass%	0.0090	Cl-KA	0.6216	0.8808
6	Fe	0.125	mass%	0.0113	Fe-KA	0.1371	0.1269
7	Cu	71.8	mass%	0.0420	Cu-KA	97.3350	73.1328
8	Zn	0.292	mass%	0.0356	Zn-KA	0.4905	0.2972
9	As	1.98	mass%	0.1737	As-KB1	0.3305	2.0139
10	Sn	19.1	mass%	0.7888	Sn-LA	1.4348	19.4927
11	Pb	2.99	mass%	0.1069	Pb-LB1	0.8921	3.0456



ピーク同定結果

試料：14上尾海獣葡萄鏡大屋 道則　　分析日時：2014- 6-10 11:12
アプリケーション：EZS000MNV　　ファイル：14上尾海獣葡萄a

スペクトル	No.	ピーク位置 (deg)	ピーク強度 (kcps)	BG強度 (kcps)	線種	
Heavy	1	12.413	0.099	0.023	Sn-KB1	
	2	14.044	0.831	0.031	Sn-KA	Pd-KB1
	3	16.806	0.163	0.020	Pd-KA	
	4	24.079	0.135	0.030	Pb-LG1	
	5	28.283	0.892	0.058	Pb-LB1	
	6	30.459	0.331	0.048	As-KB1	
	7	34.003	2.659	0.034	Pb-LA	As-KA
	8	40.476	17.388	0.049	Cu-KB1	
	9	41.787	0.490	0.205	Zn-KA	
	10	45.042	97.335	0.185	Cu-KA	
	11	57.599	0.137	0.009	Fe-KA	
	12	58.537	0.049	0.010		
	13	63.347	0.055	0.007		
	14	71.456	0.102	0.009		
	15	87.487	0.721	0.013	Cu-KB1-2nd	
	16	96.336	0.095	0.005	Sn-LG1	
	17	99.828	5.655	0.052	Cu-KA-2nd	
	18	104.100	0.182	0.020	Sn-LB2	
	19	110.408	0.169	0.017	Sn-LB3	
	20	114.386	0.883	0.054	Sn-LB1	
	21	126.735	1.435	0.200	Sn-LA	
K -KA	1	48.468	2.978	0.283	Sn-LA	
Cl-KA	1	63.336	0.029	0.008		
	2	65.295	0.622	0.009	Cl-KA	
S -KA	1	74.212	0.490	0.035		
	2	75.360	0.162	0.028		
P -KA	1	89.292	0.077	0.004	P -KA	Sn-LG5-2nd
Si-KA	1	107.997	0.028	0.009	Si-SKA3	
	2	108.784	0.171	0.011	Si-KA	
Al-KA	1	144.631	0.098	0.005	Al-KA	Sn-LG4-3rd
Mg-KA	1	42.974	0.009	0.022	Sn-LB7-3rd	
Na-KA	1	52.886	0.003	0.004		
	2	54.582	0.009	0.007	Na-SKA4	
	3	55.149	0.019	0.009	Na-KA	Zn-LB1
	4	56.854	0.016	0.015	Sn-LL-3rd	

伝どんどん山出土海獣葡萄鏡の評価

海獣葡萄鏡のうち定型式四獣鏡の類例は一部写真３・４に示したとおりである。写真3-1は三重県度会郡大紀町のユルベ浜採集鏡で、明治35(1902)年、同時に３面の海獣葡萄鏡が発見されている。このうち２面は現在所在不明となっている。本鏡は出土鏡とは口伝されながら観察者の記述によると海浜出土を示す砂粒などの付着は観察されないという[5)]。写真3-2は奈良県高市郡高取町松山古墓出土鏡である。出土地の松山古墳は、明治32（1899）年に偶然遺物（鏡２面・金銅製八花形座金具及び金環８個・鉄鋲54個）が発見され、石室構造などは明確ではない。発見された鏡は海獣葡萄鏡の他に金銅鈕銀象嵌鉄鏡である。海獣葡萄鏡は白銅質で緑青に覆われているという。左下外区と外縁の文様の鋳成が悪く、さらに外縁外側が僅かに窪むことから湯口を削った際にできた痕跡であると推定されており、古代の鋳造工房である飛鳥池遺跡などにおける国産海獣葡萄鏡の可能性が指摘されている[6)]。写真3-3は福岡県八女市真名子チンのウバ塚出土鏡で、明治36(1903)年に海獣葡萄鏡２面が発見された。鋳成は良好で舶載鏡である可能性は高い。写真3-4は奈良県天理市杣之内火葬墓出土鏡で、天理市杣之内の丘陵南面に築かれた８世紀初頭の火葬墓より出土している。正方形の墓壙に木槨が入れられ海獣葡萄鏡が副葬されたもので、石上宅嗣墓の可能性が指摘されている。鋳成は頗る精緻で唐からの舶載品である。写真3-5は三重県鳥羽市神島町八代神社に伝世する鏡である。八代神社は、鳥羽の離島の中で最も遠くに位置する神島にあり、創立年代は不詳であるが、「外宮旧神楽歌」に「神島のなおしの明神」という記載があり、また、『志陽略志』（正徳３年・1713）には「八幡宮神島村に在り。白髭明神、弁財天、風の宮、鎮守社、山神、禿宮在り」と記されている。明治40(1907)年に、山神社、神明社ほか11社を合祀し八代神社となった。宝物の銅鏡などが伊勢神島祭祀遺物として国の重要有形文化財に、鉄獅噛文金銅象嵌鍬形が、国の重要有形文化財・工芸品に指定されている。遺存する海獣葡萄鏡の鋳成は全体に甘く、踏返しによって鋳造されたものと思われる。特に右側の外区から外縁部が大きく鋳崩れており、湯口の位置を推定される。八代神社にはこの他に面径６cm 前後の６面の小型海獣葡萄鏡が伝世する。写真4-6～4-8は宮崎県東臼杵郡美郷町に所在する神門神社に伝世したものである。神門神社の創建は養老２（718）年とされているがその根拠は明らかとなっていない。祭神は大山祇命とこの地に土着したと伝えられている百済国伯智王（禎嘉帝）の霊神とされている。本社には百済王族の遺品とされる古代の鏡24面（全33面）や馬鈴、馬鐸、鉄直刀、須恵器大甕が伝世する。中でも鏡は、正倉院南倉37号鏡、東大寺大仏殿出土鏡と同型の唐花六花鏡や、長屋王邸宅出土と同型の瑞雲双鸞八花鏡、八代神社に伝世する４種10面の同型鏡を有する。これまで幾多の研究者によって調査が行われており、近時では平成12(2000)年から２回にわたって実施された杉山洋氏らの調査によってその全貌があきらかにされている[7)]。写真4-6は内区の鋳成があまく踏返し鏡であることが看取される。写真4-7は、右側の外区から外縁部が大きく鋳崩れていることからこの部分に湯口があったことが推定される。２面の鏡は、八代神社伝世鏡（写真3-5）と同型である。杉山氏によれば計測結果から八代神社伝世鏡→神門神社伝世鏡→神門神社伝世鏡の順に段階がたどれ、順次踏返し鋳造された鏡群の内の３面との見解を示されている[8)]。

以上、伝どんどん山出土海獣葡萄鏡と同じ８面の定型式四獣鏡の類例をみてきた。福岡県八女市真名子チンのウバ塚出土鏡や奈良県天理市杣之内火葬墓出土鏡などあきらかに８世紀前後に唐から舶載され

1

2

3

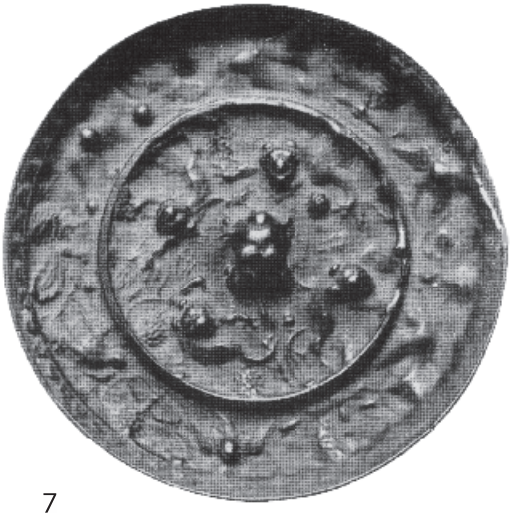
4

5

写真３　定型式四獣鏡の類例

1 三重県度会郡大紀町ユルベ採集
（大紀町教育委員会蔵　面径 9.4 cm）
2 奈良県高市郡高取町松山古墓
（東京国立博物館蔵　面径 9.8 cm）
3 福岡県八女市真名子チンのウバ塚
古墓出土（東京国立博物館蔵　面径 9.9 cm）
4 奈良県天理市杣之内火葬墓（註２文献より）
（天理大学蔵　面径 12.1 cm）
5 三重県鳥羽市神島町八代神社伝世
（八代神社蔵　面径 10.8 cm）

6



7

8

写真４　定型式四獣鏡の類例（２）

6 宮崎県東臼杵郡美郷町神門神社伝世
（神門神社蔵　面径 10.8cm）
7 宮崎県東臼杵郡美郷町神門神社伝世
（神門神社蔵　面径 10.8cm）
8 宮崎県東臼杵郡美郷町神門神社伝世
（神門神社蔵　面径 9.8cm）

※写真は片山昭悟　1994『奈良時代の鏡』私家版より転載

写真５　伝どんどん山鏡と同型鏡

1 伝どんどん山出土　径 9.4cm
2 松山古墓出土鏡　　径 9.8cm
3 ユルベ浜鏡　　径 9.4cm

た鏡と奈良県高市郡高取町松山古墓出土鏡で指摘されているように飛鳥池など国内の生産工房で鋳造された鏡、偶発的に発見された鏡、さらに鋳造時期が定かではない八代神社伝世鏡や神門神社伝世鏡などの神社伝世鏡の一群に分けることが可能である。伝どんどん山出土鏡は鏡背文様の一致から三重県度会郡大紀町のユルベ浜採集鏡、奈良県高市郡高取町松山古墓出土鏡との間に鏡背文様の一致が認められ、面径が松山古墓出土鏡→ユルベ浜出土鏡→伝どんどん山出土鏡の順に小型化することから踏返しの順に段階が辿れる可能性を指摘しておきたい。ユルベ浜出土鏡と松山古墓出土鏡との踏返し鋳造の関係に関しては勝部明生氏も泉屋博古館蔵鏡と大伴公馬蔵鏡を加えて指摘している点を付け加えておく[9]。また前述したとおりユルベ浜出土鏡出土状況に関して「海浜遺跡出土を証するような砂粒などの付着は認められない」と指摘されている[10]ように、出土と言われながら実際は伝世鏡である事実は遺存状況からみた本鏡との共通性を窺えるもので興味深い。

おわりに

以上、伝どんどん山出土鏡について若干の評価を加えさせて頂いた。本鏡はこれまでに国内で確認されている２面の海獣葡萄鏡と踏返し鋳造の関係性で説明し得る情報を有する資料であり、当該地域に伝世したという事実関係からも地域の文化財として保護し、後世に伝えるべき重要な資料と判断したい。

本報告を記すにあたり所有者の上尾市文化財保護審議会委員遠山正博氏、上尾市教育委員会生涯学習課長関孝夫氏に多大なるご支援を賜った。また、海獣葡萄鏡出土地・伝世地一覧表作製に関しては國學院大學学術資料センター客員研究員鳥越多工摩氏の労を頂戴致しました事を記して謝する次第である。

（内川）

註

1） 黄名時2014「惰唐時代の鏡文化（1）―銘文鏡の特徴とその盛衰をめぐって―」『名古屋学院学大学論集言語、文化編』第25巻第２号名古屋学院大学

2） 杉山　洋　1999『古代の鏡』日本の美術No. 393　至文堂

3） 勝部明生　1996『海獣葡萄鏡の研究』　臨川書店

4） 奈良文化財研究所飛鳥資料館　2007『海獣葡萄鏡研究図説』東アジア金属工芸の研究 9　飛鳥資料館研究図録第９冊

5） 杉山　洋　2003『唐式鏡の研究』　鶴山堂　168頁

6） 同（5）170頁

7） 奈良文化財研究所飛鳥資料館　2002『神門神社蔵鏡図録』東アジア金属工芸の研究 1　飛鳥資料館研究図録第１冊

8） 同（7）14頁

9） 同（3）175頁

10） 同（5）168頁

１）國學院大學研究開発推進機構教授　２）上尾市教育委員会生涯学習課主事